

街に飛び出した野外オペラ衣裳展

衣裳展の様子を少しでもお届けしたいと街に出ました。2月9日(火)～14日(日)、《アイダ》は日立市役所に、《マクベス》は日立駅情報交流プラザに展示しました。ワンシーンずつではありますが、鑑賞された皆様から「衣裳が豪華」「衣裳は丁寧に作られている」「暗闇に現れたマクベスにはぎょっとした」「出演したのでなつかしい」「また皆様とオペラ活動が出来る日がくるといいですね」などの声が聞かれました。



オペラ衣裳展 ～ひたち市民オペラセレクション～ in YouTube

日立シビックセンターの休館に伴い、皆様にお見せすることが出来なくなってしまったオペラ衣裳展の様子を YouTube で公開します。映像を通してオペラの華やかな衣裳をお楽しみください！

今回、誌面には載せることが出来なかった1体1体の様子を詳細に紹介しています。

日立シビックセンター公式 YouTube チャンネル
「シビックサイエンスカルチャーチャンネル」より
<https://youtu.be/8maOBExtYTI>



みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください

〒317-0073 茨城県日立市幸町 1-21-1 日立シビックセンター
「ひたち市民オペラによるまちづくりの会」事務局まで
TEL：0294-24-7755 FAX：0294-24-7979

編集後記

昨年、新型コロナウイルスが世界中を駆け巡り、色々な行事が中止・延期となり、世界が一変してしまいました。しかし、人間一人ひとりには素晴らしい頭脳と熱いハートを持っています。知恵と工夫で少しでも明るい未来を、ここ日立から発信できればと思います。木の芽も膨らみ、春の足音は確実に聞こえてきています。今年もオペラネットひたちをお届けできることを幸せに思います。(T.S)

Opera Net Hitachi

オペラネットひたち 2021.3 Vol.18

発行：ひたち市民オペラによるまちづくりの会、公益財団法人日立市民科学文化財団

こんな時こそオペラで元気を！ 野外オペラの衣裳展企画

日立のオペラ活動は、1996年「ひたち市民オペラを育てる会」発足に始まり、「ひたち市民オペラによるまちづくりの会」に引き継がれ現在に至ります。長年に渡る活動も、新型コロナウイルス感染症を巡る情勢の急激な悪化で思うように出来ませんでした。こんな時こそ「オペラで元気を届けたい」「次世代に繋げたい」と、新都市広場にて開催された野外オペラ第2回《カルメン》、第3回《アイダ》、第4回《マクベス》の3作品より厳選した衣裳を展示し、華やかなオペラの世界をお届けしたいと衣裳展を企画しました。

衣裳は野外オペラの衣裳デザイン及び制作に協力いただいた株式会社エフ・ジー・ジーから借用し、《アイダ》と《マクベス》の衣裳は、登場人物のイメージや各作品の時代背景等を基に、市民とプロが一つひとつ細部にまでこだわり共同製作した、実際に野外オペラで使用したものを展示しました。

衣裳はプリマやプリンセスなど21体のマネキンに着せられ、持ち物や靴、顔や手足の向きによる表情の見せ方に至るまで展示の工夫がされました。会場は漆黒の闇、スポットライトを浴びたマネキンたちは生き生きと輝き、いろいろな表情を見せます。レイアウトが美しい。演目ごとに、公演当時の写真と手書きの荒筋や場面の説明、また、野外オペラに関わった皆様からの苦勞話、熱い思いなどメッセージも寄せられました。照明や音楽など全てにこだわり最高の準備をし、開場を待つばかりとなりました。しかし1月9日(土)より日立シビックセンターが休館。そして休館延長。あえなく中止となりました。

皆様にお見せする予定であった多用途ホールでの展示を、次ページより写真と企画に協力いただいた衣裳チームの声でお届けします。

—開催予定—

2021.1.9 (土)～1.20 (水)
日立シビックセンター
多用途ホール
【2・3ページに掲載】

—スポット展示—

2021.2.9 (火)～2.14 (日)
日立市役所1階 正面出入口
日立駅情報交流プラザ
ぶらっとひたち
【4ページに掲載】

—YouTube—

日立シビックセンター
公式YouTubeチャンネルにて
公開中
【4ページに掲載】



オペラ衣裳展

ひたち市民オペラ SELECTION

作品名
(左から)

第2回野外オペラ《カルメン》
第4回野外オペラ《マクベス》
第3回野外オペラ《アイーダ》

今回この衣裳展の企画から参加させていただき、どのシーンを展示するか過去の写真から探して印象的なシーンを選んだ。残念ながら Covid-19 により設営には参加できなかったから衣裳展を見るのがとても楽しみであった。

入り口を入るとすぐ目に飛びこんでくるマクベスとマクベス夫人。天井からのオーガンジーのカーテンに半分隠れたマクベス夫人は豪華な衣裳の中に危うさと儚さが見え隠れしているようで、一気にオペラの舞台に気持ちが飛んでいった。会場には眩い美しい衣裳、ダイナミックな舞台装飾と共に過去の野外オペラの映像と音楽が流れていてオペラの世界が広がっている。衣裳にはとても不思議な力がある。

そこには日立の野外オペラの歴史があってプロとスタッフ、市民がひとつのものをつくり上げていこうとする熱意が伝わってくる。ひとつひとつの衣裳にこれはどこのシーンからで誰が着たものかこの衣裳を作っていた時の仲間との時間が次々に思い出され、試行錯誤しながらみんな目指すのは舞台の成功と、振り返ればとても充実した時間であった。バケツが兵士の兜になりビニルコードが鎖帷子になる…見かけではわからない沢山の工夫もされている。

野外オペラの衣裳の着替えの手伝いもしたのだが、舞台に乗る方々も緊張しただろうが、我々衣裳部もドキドキであった。早着替えがちゃんとできるか、途中で衣裳が崩れないかと、舞台裏で針と糸を持って動き回っていた。フィナーレの後は終わった！やったあ！と仲間と一緒に喜びを分かち合った。多少の疲労もあったと思うが達成感の方が勝ったなあと思ながら衣裳展を見ながら思った。会場を後にする時にはたくさんの元気を衣裳たちからもらっていた。舞台に乗る側も観る側もいいが私には舞台裏はもっと面白いのである。

みなさまにもこの衣裳たちを是非とも見て、元気をもらっていただきたい。

この衣裳に命が吹き込まれて、舞台に立つ日が早く訪れますように今をみんなで乗り越えましょう。

衣裳チーム・小峰

コロナ禍の休館で、会場にお客様をお迎え出来なかった今回の衣裳展。

企画の打ち合わせで、どの衣裳を展示する？ どう並べる？ どう見せる？ そんな話をして、漠然と展示のイメージはあったけれど…。会場に足を踏み入れると、そこは見慣れた多用途ホールではなく、何処か別の…例えば美術館の一室のような、そんな空間が広がっていた。ホールだからこその照明。天井の高さを生かして下げられた幕。人形に着せられた衣裳たちは、より映え、今にも動き出しそうなそれは、これまでの野外オペラのワンシーンを思い起こさせた。

展示作業の手伝いに入るはずが、このコロナ禍で叶わず、衣裳を“魅せる”空間を作り上げていくプロの仕事の間近で見られなかった事が、少し心残り。何より沢山の方に生で見ていただいたかった。

幻のオペラ衣裳展、携わった全ての方に BRAVI！！

衣裳チーム・吉田